

## 事業評価票（資産分析を行う事業）

<b>3</b>	<b>ごみ運搬船の更新（建設局河川部）</b>	管理・運用開始	昭和 48 年度
資産の概要		・ごみ運搬船は河川水面清掃で回収したごみを集約し、揚陸施設へ運搬するための船舶である。	
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【年間使用回数】 ・平成26年度：307回、25年度：303回、24年度305回	
	維持管理コスト	・平成26年度（定期検査）：26,025千円、25年度（手入れ）：8,469千円、 24年度（日常修繕のみ）：3,718千円      《単位当たりコスト》平均 35千円/日	
	老朽化状況	・稼働年数：41年/耐用年数30年 (都公有財産規定（鋼船）耐用年数による)	老朽化率 100 %
	課題・問題点	・現在使用している船は船齢が耐用年数を大きく超えており、故障・損傷が多い。 ・修理については、状態確認のためドックに上げた状態で調査が必要なため、時間を要する場合がある。	
今後の対応 (局計画)		・ごみ運搬船の更新（新規建造）を行う。	
見積概要 (局評価)		・現在運用しているごみ運搬船を更新することで、維持管理に係る経費の削減を図る。28年度は建造に係る経費（28,29債務負担行為）を見積もる。	
		28年度見積額	
		— 千円	
		27年度予算額	
		— 千円	
財務局評価		・現在の船舶は老朽化による故障・損傷が多く、修理にも時間を要するため、更新の必要性は認められる。また、更新により維持管理コストの削減も図られることから、見積額のとおり計上する。 《債務負担行為》○限度額：250,000千円 ○期間：平成29年度まで	
		○ 妥当	見直し
		見送り	その他
		28年度予算額	— 千円

<b>4</b>	<b>直営しゅんせつ用トラッククレーンの更新（港湾局）</b>	管理・運用開始	昭和 57 年度
資産の概要		・直営しゅんせつ船海竜に資機材を積込むためのトラッククレーンを保有している。	
現状分析	需要状況 (利用・稼働等)	【稼働状況】 ・概ね年間0～2回程度	
	維持管理コスト	・維持管理費（過去3ヵ年平均）333千円      《単位当たりコスト》平均 167千円/回 ・平成26年度 345千円、25年度 295千円、24年度 360千円	
	老朽化状況	・稼働年数34年/耐用年数6年	老朽化率 100 %
	課題・問題点	・耐用年数を大幅に超過して使用しており、修繕費用が高額となっている。	
今後の対応 (局計画)		・年間使用頻度及び経済性に鑑み、局所有から賃借に切り替えて対応することとする。	
見積概要 (局評価)		・平成28年度見積216千円（賃借料） ・過去3ヵ年決算平均額333千円（修繕費）に対し、年間117千円の経費削減を図る。 《イニシャルコスト比較（年間）》      (単位：千円)	
		28年度見積額	
		216 千円	
		27年度予算額	
		657 千円	
財務局評価		・これまでの使用実績を踏まえ、局所有から賃借に切り替えることで、コストの削減が図られていることから、見積額のとおり計上する。	
		○ 妥当	見直し
		見送り	その他
		28年度予算額	216 千円